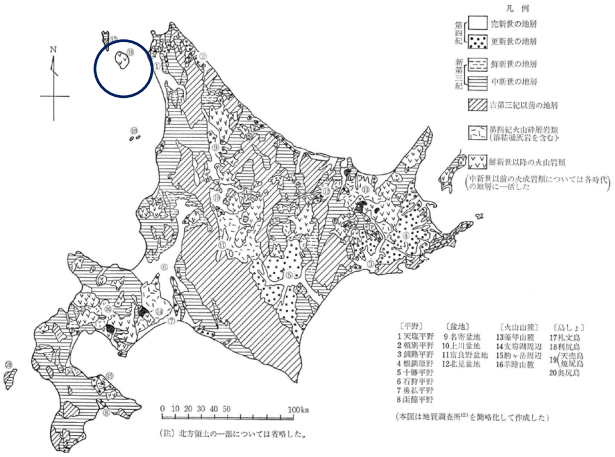
18.利尻島



地形・地質

利尻島は長径 18km，短径 15km のほぼ円形の島で，中央に利尻山がそびえ立っています。利尻山は更新世に出現した火山で，標高約 1000m 以上は急傾斜の放射谷で刻まれ，標高約 400m 以下は扇状地と溶岩台地となり火山山麓をなしています。基底の地質は、新第三紀の堆積岩と火山岩でともに不透水層で,利尻火山噴出物は透水層とみることができます。

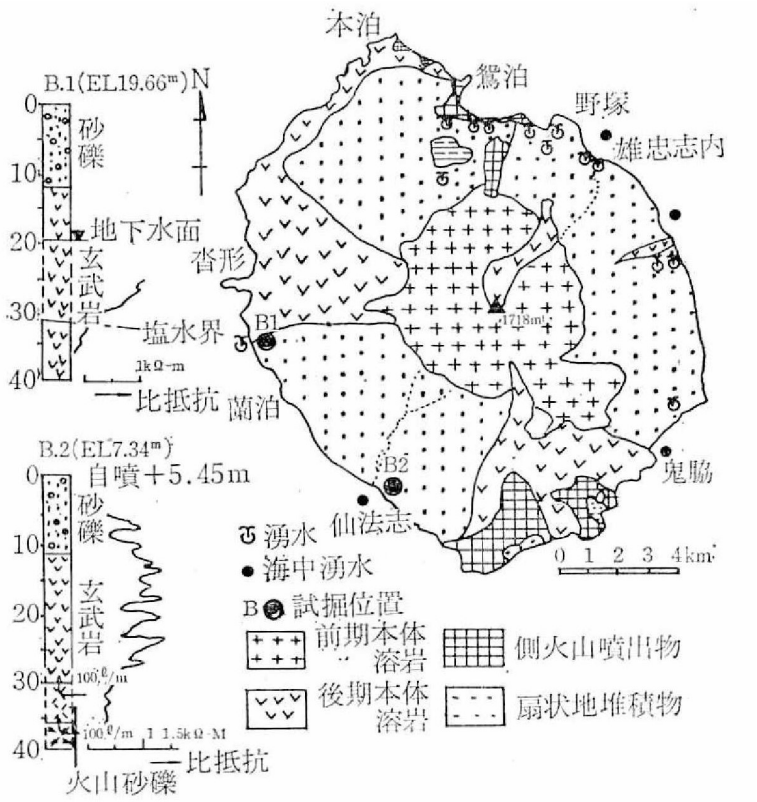
利尻島の地質層序表

時代		地層名	岩質その他
第四紀	完新世～更新世	沖積層	粘土，シルト，砂および泥炭
		扇状地堆積物Ⅱ	礫，砂，シルトおよび粘土
		後期火山噴出物	各種溶岩，火山砕屑物
		扇状地堆積物Ⅰ	礫，砂，シルトおよび粘土
		放射状岩脈群	安山岩および玄武岩
	更新世	前期火山噴出物	各種溶岩，火砕岩スコリア等
		溶岩円頂丘群	安山岩円頂丘溶岩
新第三紀	中新世	鴛泊層	珪藻質シルト岩，砂岩
		港町層	安山岩質溶岩，凝灰角礫岩，火山円礫岩

（5 万分の 1 地質図幅[1]を簡略化）

地下水

利尻島の東半分は湧水・河川・湖沼など地表水に恵まれていますが，西半分は地表水や地下水にも恵まれず無水地帯になっています。このため，農業開発を目的とした地下水開発や，住民の生活用水確保を目的とした調査が多く行われてきました。



利尻島の地質図

出典　日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

https://jagh.jp/activities/groundwater_database/（日本地下水学会）